

胃バリウム検査と胃内視鏡検査（胃カメラ検査）の違い

「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン 2014 年度版」（国立がんセンター）より、胃がん検診として推奨されている検査方法は以下の 2 つです。

- 胃バリウム検査
- 胃内視鏡検査（胃カメラ検査）

胃バリウム検査か胃内視鏡検査（胃カメラ）のどちらを受診するのは、それぞれの長所、短所を理解して選択が必要です。

	長 所	短 所
胃バリウム検査	<ul style="list-style-type: none">● 胃全体の形がよく分かる● 胃下垂や胃の伸びやすさが分かる● 食道や胃の動き、食べ物が通る様子が分かる● 検査直後から食事ができる	<ul style="list-style-type: none">● 誤嚥、排便遅延、穿孔、バリウムアレルギーなどの偶発症● 放射線被ばく● 異常があった場合は改めて内視鏡検査を受ける必要がある● 食道や胃接合部など観察しにくい場所では、病変が分かりにくい
胃内視鏡検査（胃カメラ検査）	<ul style="list-style-type: none">● 咽頭、食道、胃、十二指腸の観察が可能● 粘膜表面の色調や凹凸など微細な変化を詳細に観察できる● 必要に応じて生検（組織検査）を行い、がんなどの診断をつけることができる● バリウムでは分からない逆流性食道炎の有無が判断できる	<ul style="list-style-type: none">● 前処置の咽頭麻酔によるショックの可能性● 穿孔、出血などの偶発症● オエっという咽頭反射（経口のみ）● 咽頭麻酔の効果がなくなるまで飲食ができない（約 30 分）

※当院の胃内視鏡検査（胃カメラ検査）ではご希望により『経口（口から）』『経鼻（鼻から）』を選択できます。

一般的な集団健診では多くの受診者を低コストで検査できる胃バリウム検査が主流です。ただし、個人で健康診断を申し込む方や検査を選択できる方は、より詳細な観察・診断が可能な胃内視鏡検査（胃カメラ検査）を受けることをおすすめします。

年齢やがんリスクの高低によって検査間隔を調節して受けるのもよいでしょう。胃が痛い、胸やけがする、おなかが張る、飲み込みにくいなど何らかの腹部症状がある方は、まず消化器外科外来を受診しましょう。